

店内には絵画などアートが展示されている。アートを話題に人々は語り合い、お酒や料理を楽しむ。

世界中からアーティストが集まるニューヨークにはとてもふざけたいコンセプトの店で、さらにウエストビレッジというアーティストたちが暮らし、徘徊する地区に立地していることもあって、アート・バーは彼らにとつてのサロンとなり、あつという間に近隣の住人を含め、大勢の人たちを集めるようになった。イブラハムがクリエートした「ラウンジ」は、狭いアパート

に一人で暮らす人たちが多いニューヨークが求めていた空間だったのだ。

マーチャント NY

料理、サービス、音楽、照明と成功の条件を整える

さらにそのラウンジのコンセプトを、ニューヨークのダイニングシーンに広めたのは、『マーチャント NY』である。92年にやはりウエストビレッジに開いたこの店は、1階にバーがあり、中2階にはダイニング、地下にはラウンジがある。ラウンジというのはどこかの家のリビ



リビングルームのような雰囲気を出したマーチャント NY

Merchants NY マーチャント NY

1125 1st Avenue ☎212-832-1551
112 7th Avenue ☎212-366-7267
521 Columbus Avenue ☎212-721-3689

ず考えるのはレストランのこと。夜、眠りに入る前まで考えているのはレストランのことだ」イブラハムがいつも肌身離さず持ち歩いているものがある。手のひらサイズのテーブルレコーダーだ。アイデアが浮かんできたら、すぐに録

ングルームのような設定で、暖炉があり、その周りにカウチやソファが雑然と並べられ、お客はその空間の中でくつろぐ。

このコンセプトは大ヒットした。マンハッタンのあちこちにこのラウンジスタイルのバー、さらにはラウンジを付帯したレストランが登場する。

「リサーチやテストもするが最終的には、直感に従ってコンセプトを決めている。常にオープンマインドでいなければならぬ。何を見てもそこから何かを学び、私だったらこうすると考える。朝、目が醒めてからま

音のボタンを押し、それを記録する。

「料理、サービス、音楽、照明。どれが欠けてもレストランは成功しないが、最も重要なのは創造と発明だ」

マーチャント NY が成功したのは、「リビングルーム」という新しいコンセプトをレストランシーンに持ち込み、それが今までにないアイデアで、だれにとつても心地いいものだったこと。モダンに走り過ぎず、気取り過ぎず、快適でしゃれたインテリアを設定した。

もう一つこの種の店の場合、往々にして内装、音楽に比重がかかり、料理がおざなりになってしまうのだが、マーチャント NY はその常識を打ち破った。メニューはサンドイッチやパスタといったアメリカンカジュアルフードだが、どれもおいしくプレゼンテーションが美しい。つまりイブラハムが言う、料理、サービス、音楽、照明とレストランが成功する基本的条件を満たしているのだ。

95年にはマーチャント NY 2号店をアップパーウエストサイドに、96年には3号店をアップパー

イーストサイドに出店。シガーバー、DJ、ジャズのライブなど新しい要素を加えた。ダウンタウン、アップタウンに住むヤング、ミドルのたまり場として毎夜、にぎわっている。

「バーはそこにあるエネルギーが重要なキーポイントだ。いつも何かが起こっている。アクティブで騒がしい。週末の夜のマーチャントに行くとき、そういう光景が展開されている。ニューヨークは新しいレストランが次々にできるから、この人たちはあちこちのレストランを駆け巡り、いつも同じレストランに通うという人たちは少ない。ところがバーのお客は、大抵が近所にある「自分の場所」のような行きつけの店を持っている。そういう常連客をいつもハッピーにしてあげる。そして彼らが退屈しないように、少しずつ良い方向へ変化をしていくように努力している」

ダウンタウンのマーチャント NY は、新たにビルの後ろにある庭を借地することができたため、そこにグリーンハウスを建設中だ。その中にテーブルやイスを置くのだという。